

サンパウロ日本人学校での取り組み

平成24年度派遣
サンパウロ日本人学校
関 谷 誠

1. ブラジルの概要

(1) 歴史

ブラジルの歴史は、紀元前1万年前まで遡ることができる。当時のブラジルには、ユーラシア大陸から渡ってきた先住民たちが、原始共同体で狩猟を中心とした生活を営んでいた。16世紀に入り大航海時代が始まると、ヨーロッパから数多くの開拓者が未知なる大陸を求めて出航するようになり、ブラジルの歴史も大きな変動の時期を迎える。1500年4月22日、ポルトガル王の顧問官であったペドロ・アルヴァレス・カブラルが率いる船隊は未知の島を発見。かれらはその島を「ヴェラ・クルス」と名付け、ポルトガルの領地であることを宣言した。カブラルがブラジルを発見した1500年から1808年までは、ポルトガルによるブラジルの植民地時代が続き、ポルトガル人は、ブラジルからパウ・ブラジル（染料となる樹木）や砂糖、貴金属などさまざまな作物や商品を輸出するとともに、アフリカから黒人奴隷を連れてきて農地や鉱山で働かせて莫大な富を得た。1807年、フランスのナポレオン軍がポルトガルに侵攻し、ポルトガル女王マリア1世がブラジルのリオ・デ・ジャネイロに逃亡してくると、またブラジルの歴史は大きく動く。王室が置かれたリオ・デ・ジャネイロは発展の途をたどるが、女王の死後、ブラジルには自由主義的な共和制を求める声が高まるようになった。1822年には遂にブラジルの独立が宣言され、独立国ブラジルの歴史がスタートする。さらに、1889年には無血革命が行なわれ、ブラジルは帝政から共和制へと移行した。

(2) 地理

ブラジルは、南米大陸の約1/2を占める広大な面積を持つ国で北側にベネズエラ、西側にペルー、南側にアルゼンチンと国境を接し、国土面積は約8,514平方メートルである。世界で5番目に大きな国で、日本の面積の約23倍にもあたる。地域ごとに異なる気候と風習をもち、国土全体では17個の世界遺産を有する文化と観光の国となっている。豊かな自然が多く、貴重な動植物が棲息する熱帯雨林、世界第2位の長さを誇る全長約6,500kmのアマゾン川や世界有数の大湿原として知られるパンタナール、雄大なイグアスの滝などが有名である。

(参考) ブラジル総合情報サイト ブラジルウォーカー (<http://www.brasilwalker.com/brasil/entry4.html>)

2. サンパウロ日本人学校の概要

(1) 概要

サンパウロ日本人学校は、1967年に設立され、今年度で48年目を迎える。学校はカンポリンポという小高い丘にある地区にあり、日本人たちが多く住む居住区からは車で45分ほどかかる。日本に比べると格段に犯罪が多く、危険なサンパウロの中でもベスト3に入る犯罪の多い危険な場所であるため、周りは高い鉄の塀に囲まれ、警備員が常に数人が24時間体制で厳重な警備を行っている。しかし、中に入ると、周りの様子とは全く違う。たくさんの植物に囲まれた自然豊

かな敷地は、面積約12万㎡（東京ドーム2.5個分）もあり、大変広い敷地がこの学校の自慢である。その中に、管理棟、特別教室棟、体育館などいくつかの棟に分かれ建っている。また、小学部は学年ごとに独立した建物になって、教室と多目的室とがある大変恵まれた学習環境である。敷地内には、バナナ園やコーヒー園、ジャングルなどあり、たくさんの植物が一年を通じて花を咲かせてくれる。現在小、中合わせて約250人ほどが勉強に運動に励んでいる。治安の問題から、公園など一人で行くことができず、体を動かせるのはマシオンの中にある小さなグラウンド程度。また、登下校もバス。普段から運動不足になりがちの子どもたちにとっては、思いっきり体を動かすことのできるこの環境は大変恵まれている。



学校全体



小学部6年教室



バナナの木

(2) 教育目標

豊かな人間性、確かな学力、たくましい体を持ち、国際社会で信頼と尊敬を得る人間の育成

3. サンパウロ日本人学校での取り組み

(1) アミーゴス班活動

小学部1年生から6年生までで縦割り班活動をしている。それを「アミーゴス班活動」と呼んでいる。10の班に分かれ毎週火曜日の朝の時間を使って活動している。長縄跳びをしたり、ドッチボール投げや玉入れの玉を使った的あて、サッカーボールでのパスなど班対抗で競い合いながら体力の向上を目指し取り組んでいる。また、年1回の小学部による全校遠足では、この縦割り班でオリエンテーリングを行ったり、遊びをしたりしている。メンバーは1年間変わらないので、子どもたちの仲も深まり、学年を隔て、異学年とのつながりも大きくみんな仲がとても良いのもこの学校の良いところである。

(2) 運動会

サンパウロ日本人学校の運動会は、赤白ではなくブラジルカラーの黄色と緑色に分かれて競い合う。徒競走や騎馬戦、台風の日、玉入れ、綱引きなど日本の運動会と変わらない内容であるが、日本を離れたブラジルで、それが味わえるのはかえって子どもたちにも見る人にも新鮮で好評である。競技の部と応援の部の2つで競い合い、児童、生徒たちは毎年「W優勝」を目指して練習に励む。特に応援練習は、小学部、中学部が一緒になって、小学部5年生以上から集められた応援団を中心に毎日練習をする。隊形やオリジナルソング、ダンスなど応援団が考えリードする。工夫を凝らした応援合戦も運動会の名物の一つ



になっている。

(3) カンポリンポ祭

サンパウロ日本人学校で、運動会に並ぶ大きな行事の一つが毎年秋に行われる学習発表会の「カンポリンポ祭」である。その中で舞台発表と全校サンバ（音楽発表）の2つを行っている。舞台発表では、小学部低学年ブロック、中学年ブロック、高学年ブロックと中学部の4つに分かれてそれぞれ発表する。毎年、ブラジルにきた移民の歴史を取り上げた劇や担任が書いたオリジナル劇などを行っている。中学部では、脚本選びから、役者、大道具、小道具、照明などすべて生徒たちの手で作り上げる劇を行う。

全校サンバ（音楽発表）では、小学部→中学部→全校という順番で発表をする。ブラジルの音楽をサンバ楽器で演奏する。初めて触れる楽器も多く、また特有のリズムに苦戦することも多いが、子どもたちは毎日友だち同士教え合いながら、一生懸命練習し、みるみる上達していく。全校が心を一つに、素晴らしい演奏が体育館いっぱいに響き、この祭りの感動のフィナーレを迎える。



(4) コーヒー狩り



サンパウロ日本人学校の広い敷地の中に「コーヒー園」がある。真っ赤な実を付る5月から6月には、全校でコーヒー狩りが行なわれる。中学部も交えた縦割り班で枝になった1つ1つの実を手で収穫する。高いところに実っている実を、大きな学年の子が小さい学年の子を抱っこしながら取らせてあげる微笑ましい姿も多く見られる。そのあとは、コーヒーについての勉強会や焙煎の体験、前の年に取れたコーヒー豆で入れたコーヒーの試飲などを行う。自分の学校で採れたコーヒーの味は格別である。

(5) ビバ・カンポリンポ

サンパウロ日本人学校には、たくさんのお客さんが訪問してくれる。その方々を講師に招いて講演をいただいている。それを総合的な学習の時間の一環として「ビバ！カンポリンポ！」と呼んでいる。私が勤めていた3年間で、ジャズピアニスト、お笑いグループ、作家の郡司ななえさん、マンガ原作者、深海6500の乗組員、柔道の上野雅恵選手、岡田武史前日本代表監督、Jリーガーの三浦和良選手などなど日本を代表するたくさんの方にお話いただいた。子どもたちは、その人の技術に触れるだけではなく、その言葉からその人の考え方や生き方にも触れることができた。夢を追う大切さや目標をもって努力することなど、今後の自身の人生を考えるきっかけにもなる貴重な時間であった。



(6) 現地校との交流

①コンコルジア校との交流

小学部の低学年、中学年、高学年でそれぞれ2回、中学部は1回、学校の近くにある現地の私立校「コンコルジア校」と交流を行っている。年に2回行っている小学部では訪問と来校を行っている。お互いに招待する方が交流内容を企画、準備する。訪問ではブラジルならではのスポーツやレクをすることが多く、来校は、日本のことを知ってもらおうと折り紙や習字、剣道のデモンストレーションなどを行った。お互いの国のことを知ったり、学校で週1時間行っているポルトガル語の授業を活かして、ポルトガル語で話す貴重な体験の場にもなっている。



②レオナルドダ・ピンチ校との交流

小学部6年生の修学旅行で、現地私立インター校の「レオナルド・ダ・ピンチ校」との交流を行っている。一緒に授業を受けたり、お互いの出し物をしたりしながら半日の日程で行う。昨年度は、演劇やダンスなど、普段味わうことのできない授業にも参加することができた。最後にお礼としてソーラン節を披露。そのあとは、踊りを現地の子もたちに教え、一緒に踊った。日本の文化を少し知ってもらえる良い機会にもなった。



③マナウス日本人学校との交流

ブラジルには3つの日本人学校（サンパウロ日本人学校、リオ・デ・ジャネイロ日本人学校、マナウス日本人学校）がある。昨年度の小学部6年生の修学旅行では、同じブラジルの日本人学校であるマナウス日本人学校と交流することができた。同じ日に同じ方面に修学旅行に行くということで、学校長同士が連絡を取り合い、同じホテルに泊まることにし、ホテルのレセプション会場で交流会を行った。お互いの日程の都合で夜にしか時間が取れず、1時間ちょっとの交流会となったが、お互いの学校紹介をし、名刺を持って自己紹介を行った。お互いの好きなことや学校のことなど話題にしながら笑顔で交流できた。日本を離れ、同じような境遇で、同じ国に住んでいるということで、親近感も湧いたようでこの出会いから今でもメールなどで交流を続けている子どももいる。



(8) 日系人との交流

ブラジルは世界最大の日系人居住地であり、約 160 万人の日系人が住むといわれている。そんな日系人の方々との交流もまた、ブラジル移民の歴史を知り、遠く離れたブラジルで活躍する日本人を知る重要な活動になっている。年に 1 回サンパウロから 300km ほど離れた日系人移住地にあるグアタパラ日本語学校との交流を長年続けている。25 年度まで修学旅行で 6 年生が訪問し、交流活動やホームスティを行っていた。そして、26 年度からは小学部 3 年生以上の希望者で行く新たな試みで行った。また、グアタパラの児童・生徒も、本校のカンポリンポ祭に参加したり、2 年に 1 度、本校児童・生徒の家にホームスティをしたりし、お互いに交流を深めている。



4. おわりに

私にとってこの 3 年間のブラジル、サンパウロ生活はあっという間に終わってしまったと思うくらい短く感じる充実した日々であった。海外で生活することは、不便なことも多く、大変なことも多い。治安についても常に用心して、慎重に行動していかなければならない。苦勞も多かった分、日本を離れたからこそわかること、学べることも多かった。今回の派遣は、私にとって大変貴重な研修の機会であった。

今後は、ここで得た多くのことを日々の教育活動に生かしていきたいと思う。このような機会を与えていただいたことを心から感謝している。